

『火星に住むつもりかい？』

伊坂幸太郎／著 光文社

多くのミステリー小説とは少し違います。現実の世界とは異なる世界が舞台の、SFチックな内容です。そこでは警察が魔女狩りと称して犯人捜しをします。「本当の正義」「本当の悪」とは何だろう。自分が思う正義はただの偽善ではないかと思ってしまう。いろいろなことを深く考えさせられる小説です。

『ドロップ』

品川ヒロシ／著 リトルモア

この小説は芸人の品川ヒロシさんの中学時代の話です。私立中学で真面目な生徒だった品川さんは、漫画を読んで不良になりたいと思います。そして公立中学に転校し、不良仲間と行動します。品川さんが過ごした日々はとても面白く、読んでいてワクワクします。

図書委員です。 この本、面白かったので おすすめします。No.2

『怒り』

吉田修一／著 中央公論新社

殺人事件を起こし逃亡中の犯人“山神一也”。事件と同時期に千葉・東京・沖縄に現れた身元不詳の3人の男。3人のうち一体誰が“犯人の山神一也”なのか。信用・嘘・裏切りが交錯する、最後まで目の離せない小説です。

今年、映画化もされました。原作を読んで気に入った方はぜひ観に行ってみてください。

『リロ・グラ・シスタ』

詠坂雄二／著 光文社

学園を舞台としたミステリーです。“名探偵”を名乗る主人公が、学校で起こった殺人事件に関わっていきます。ラストには驚きの真実が明かされます。登場人物たちの人間関係や台詞回しなど、読み進めるうちにクセになってしまう要素が多く、読み終わったあと、必ずもう一度読み返したくなります。

また、詠坂さんの他の作品に、この話と世界観を共有しているものがいくつかあるので、そちらもぜひ読んでみてください。